



第1回 学校運営協議会

1 日 時 令和8年7月2日（木）午前10時から11時30分まで

2 会 場 静岡県立池新田高等学校 小会議室
静岡県御前崎市池新田 2907-1

3 参加者

○学校運営協議委員

伊藤 有宏 委員
水野 浩三 委員
漢人 隆弥 委員
矢野 恵佳 委員（欠席）

○学校職員

校 長 山崎かおる
副 校 長 木本 恭嗣
高等部主事 平野あゆみ
教務課長 小倉 寛子

4 内 容

※会に先立ち、任命状の授与を行った。

（1）開会 10：00 進行 副校長 記録 教務課長

（2）校長挨拶（5分）

おはようございます。校長の山崎でございます。

協議会については、今年度も2回開催し、地域の方に本校の様子についてそれぞれの立場

から御意見をいただき、地域の中での活動への提言、応援をしていただく主旨となっている。それぞれのお立場、地域の状況から御意見をいただきたい。

6月の中旬に池高との文化祭で販売会を行い、地域との活動が広がっている。しぶき祭に参加したが、毎年楽しみにしているお客様がおり、分校の活動が浸透していると感じている。

現在、学校を取り巻く状況としては、ここ最近、小学校での火災、地震などの災害が頻発している。また、特支学校のお子さんが飛び出しの末、亡くなってしまう事故もあり、特支学校を取り巻く安全管理が重要である。御前崎分校は、高校と同じ建物を使っていることを踏まえた安全管理を進めていきたい。これらのことより、本日は危機管理という視点でも御意見をいただきたい。

（3）自己紹介（委員及び学校職員）（5分）

- ・伊藤委員 木下委員の後任として着任した。
- ・水野委員 今年度で5年目になる。池高出身の地元の人間である。
- ・漢人委員 スポ協の事務局長をやっている。池高出身で、高校時代にはロスオリン

ピックに出た同級生がいる。高校の時には目立たなかったが、大学に行き芽が出た。生徒は一人一人が可能性を持っていると感じている。

- ・校長 地域のために貢献できるよう取り組んでいきたい。

副校長 地域に親近感を感じ、人と人の結びつきを感じている。

部主事 地域との結びつきがある。御前崎分校は地域に支えられてきている。

教務課長 分校は、地域の資源があることで学びが深まっている良い環境であると感じている。

(4) 協議

ア 令和8年度学校経営計画（校長）（10分）

- ・学校経営計画書 ホームページ掲載済み

- ・校訓「元気 笑顔 夢の実現」は本校と同じであり、生徒は合言葉のように使っている。分校の子どもたちは、高等部なので、特に夢の実現に力を入れている。

学校教育目標 「いきいき学び 地域と共に よりよく生きる人を育てる」

いきいき学ぶ＝心身ともに健康で、楽しく主体的に学ぶこと

地域と共に⇒学校生活が充実し、人・もの・ことに関わること

よりよく生きる人＝日々の学びを積み重ね、卒業後に自立した豊かな生活を送れるようにすること

具現化の柱 専門性

安全・安心

連携

チーム

学校経営計画書に沿って説明

※学校組織はチームで成り立っているので、教職員一人一人が役割をもって主体的に参画すること、また、ワークライフバランスを実現し、チームとしての学校を目指したい。

- ・本年度の取組

<専門性>

- ・生徒の思いや考えの表出に沿った授業づくり、授業改善を行う

⇒ 生徒は、それぞれの思いや考えをもっているが、その表出が難しい場合もある。そのため、表出を大切に受け止めながら、表出することで自己調整できるように育てていきたい

- ・社会へ主体的に関わろうとする態度や社会へ主体的に関わろうとする態度を育む

⇒ 社会生活につながることを大切に育てていきたい。

- ・ICTの使用目的を明確にしながら生徒の実態に合わせた効果的なICT活用について考える。

⇒ 生徒に合った使い方で、機器を使いながら効果的に学んでいくことを目指したい。

- ・年間指導計画をもとに、学習内容について定期的に振り返り、生徒一人一人の特性や内面の育ちに配慮した指導・支援をする。

⇒ 3年間を見越した学習内容と学習の積み重ねを大切にして取り組む。

子どもたちの実態が様々なので、内面の育ちを大事にしながら指導していきたい。

<安全安心>

- ・生徒の特性や心理的安全性の確保に配慮した生活指導及び支援
 - ⇒ 心理的不安定さを抱えている生徒が多いので、精神面の安定に配慮しながら支援をしていきたい。
- ・人権に配慮した言動や行動の徹底
 - ⇒ 相手を尊重した言葉遣いをして生徒の手本となるように意識していく。
- ・命を守る体制の構築と緊急時対応の行動力強化
 - ⇒ 生徒自身が、自分自身の安全について考え、避難行動がとれるようにすると共に、地域の状況を捉えながら、安全に生活できるようにしていきたい。

<連携>

- ・生徒の夢の実現に向けた関係機関等との協働強化
- ・地域資源（人・もの・こと）への深い理解とそれを活かした実践や発信
 - ⇒ 地域の中で生活していく子供たちなので、自分たちが住んでいる居住地で自分の役割を果たしながら、豊かな生活をしていきたい。
 - ⇒ 卒業後のなりたい自分の姿、夢の実現を目指し、指導・支援していく。地域とのかかわりをとおして、様々な人と共同する力を身に付けたい。
 - ⇒ 読書活動の推進については、県の方でも第四次こども読書活動推進計画がスタートしているので、学校でも推進していきたい。
 - ⇒ 積極的な交流活動の推進については、池新田高校の生徒との交流、地域の交流もしているので、継続的に積極的な交流活動をしていきたい。

<チーム>

- ・働きがいのある職場の充実
 - ⇒ 分校ならではの特長を発揮した活動を考え、それぞれの部署で改善しながらよりよい分校を目指していく
 - ⇒ 会議の時間の見直し、目的をもった開催を目指す。
授業の中で、適切な役割や指導人数を考える。これは、必要な指導はするが、手は出しすぎないような適切な人数配置を考えていく
 - ⇒ 時間外勤務が年間 360 時間以内で収まるよう、それぞれの職員が、働き方を考えながら、ワーク・ライフ・バランスを考えていけるようにしたい。

イ 教育活動（部主事） （10 分）

- ・地域協働型学習及び共生・共育の推進 ※経営書 P19 及び資料に沿って説明
- ・HP は毎日更新している
- ・地域とのつながり… 大産業まつり、家庭科の学習の一環での幼児交流
- ・池新田高校との交流 … 行事交流
しぶき祭（オープニングにも参加）
⇒互いの発表を盛り上げていた

体育大会（11 月）

⇒浜岡総合グラウンド

授業交流（年間 2 回）

あいさつ運動

- ・地域作業 … 地域の実際の事業所で仕事（作業）をさせていただいている。（市役所、老人介護施設等）
- ・産業現場における実習 … 地域の事業所で実習をさせていただいている。
- ・その他、外部人材 … 清掃外部講師、革工芸外部講師、JA の外部講師（技術や地域の情報を伝えてもらっている）
- ・さまざまな場面で地域に支えられている

ウ 意見交換 （20 分）

水野委員：他県で小学部のお子さんが滝つぼで亡くなった事件。あの地域は子どもが増えているが、教員が足りていないという情報だった。この地域の子どもの数と教員の実態はどうか。

校 長：御前崎分校は、年度により、生徒の人数の増減があるが、それに対する教員の実態は満たしている。

本校は、おおよそ 270 人。ここ最近の増減は、横ばいである。

他の特別支援学校は 300 人を超えている学校もある。知的障害教育特別支援学校が増えている傾向にある。特別支援学級も 10 年くらい前から人数が増加傾向だと聞いている。

水野委員：人数が増える要因は何か。

校 長：特別支援教育への理解が進んできて、就学前の段階で、集団での活動の苦手さや活動の中で特別な配慮が必要な子どもたちが療育や医療機関につながり、そして、特支学級に入学する傾向がある状況である。保護者のニーズも多様化しており、昔は、みんなと同じが良いという考えが多かったが、今は、自分の子供に合った教育を求める親が増えたこともあるのではないかと考えている。

副 校 長：分校は、教室の広さから、大体 9 人くらいが適正かなと考えている。ここ数年は、大体 40 人前後で横ばい傾向である。しかし、生徒の障害特性は多様である。

漢人委員：福祉センター、児童館、杏林堂で、活動している姿を地域の人が見たときに、がんばっていると思ってもらえるので、様々な活動はよいと考える。

副 校 長：地域での活動のアイデアを御教示いただきたい。

漢人委員：いろいろな場面で、杏林堂は小売り、児童館は、いろいろな年齢層の子どもが活動している。このようにいろいろなところで活動することにより、様々な体験ができていないかと考えている。

副 校 長：知的障害のある子どもたちは支えられている立場であったが、地域での役割をもって、その地域を支えられるように育ててほしい

伊藤委員：卒後の進路について、法定雇用率が上がっているが、企業就労には難し

さがあるのか。

学部主事：企業就労について、企業への就労が実態に満たない生徒については、A型、B型事業所に行き、働く力を付けて企業就労を目指している。

伊藤委員：法定雇用率達成も厳しいところ。反面、AI導入により単純定型的な業務をAIに置き換えることが多くなった。このため、適した仕事が少なくなっていることもあるのではないかな。

また、18歳で入社し、現在40代の方について、健常者よりも、能力の衰え方が大きいという傾向も見える。AIではできないような職種はよいと感じる。

副校長：知的障害は内部障害なので、見た目では気付かれにくいこともある。会話はできるが、その内容が分かっているかどうか、分かりづらいところがある。知的障害のある方は、一つのことに集中して行うという良さがある。一方でAIが出てきた難しさは感じる。

(5) 学校参観 1年、2年 職業「校内実習」を参観

<感想>

伊藤委員：出来高などは、効果的なICTを使っている。時代の流れに乗っていると感じた。

漢人委員：本当によく頑張っている。エイケン工業の資材は、どのような感覚でできるか試してみた。感覚を覚えればよいと感じた。

(6) 校内コンプライアンス委員会

ア 令和8年度不祥事根絶取組計画 (3分)

- ・経営書P31に沿って説明
- ・年間通じて、不祥事があれば、県から通知が来るので、校内で周知して、自分事として考えられるようにしている。
- ・学校職員衛生委員会で、自己調整力を付けるような取組をしている。

テーマを設けて、話す機会を設けている。

例：身体接触、生徒との距離感

1月は、多様性の尊重。アイデンティティの多様化により、他者理解が必要なので、これをテーマにしている。

- ・新たな生徒指導におけるルールの確認

⇒SNSの問題が大きく入ってきている。撮影機器についての扱いも明確にされている。これをもとに職員に伝えている。現在のところ不祥事はゼロである。

- ・人権教育

⇒生徒の特性を理解し、本人の内面を探り実践していく。

授業で取り残さないことに加え、生徒は、言葉と自分の状態が一致していない場合が多いので、内面の見取りと適切な支援を掲げている。

ウ 質疑応答（５分）

＜不祥事や人権について＞

水野委員：不祥事や苦情について、職場環境や風通しのよいところでは、少なくなると思われる。このまま（風通しのよい職場環境の）継続を

漢人委員：スポーツ協会の中でも不祥事やハラスメントがあれば、保護者からあがってくる仕組みになっている。

（７）連絡事項 ※次回開催日及び学校行事の案内

- ・ ２月３日 AM 開催
- ・ 学校行事で生徒の様子をみていただき、次回御意見いただきたい。

（８）閉会